

# 29G-pm20

在宅チーム医療の推進を目指した専門職間連携教育学生セミナーの試み

○福原 正博<sup>1</sup>, 飯村 菜穂子<sup>1</sup>, 真柄 彰<sup>2</sup>, 高橋 榮明<sup>2</sup>, 松井 由美子<sup>2</sup>,  
金谷 光子<sup>2</sup>, 遠藤 和男<sup>2</sup>, 杉原 多公通<sup>1</sup>, 北川 幸己<sup>1</sup>(<sup>1</sup>新潟薬大薬, <sup>2</sup>新潟医福大)

【目的】国民の生活の質を豊かにし、維持してゆくためには、保健・医療・福祉分野における継ぎ目のないサービスとケアが必要である。これを支援する専門職の『卵』である学生が大学という垣根を乗り越えて集い、将来のチーム医療・連携医療の実現と効率的な協働の実践に向けて共に、そして自ら学ぶことを目的とする。

【方法・結果】医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、管理栄養士、歯科衛生士、歯科技工士を目指す、新潟市内 7 大学（新潟医療福祉大学、新潟大学、新潟青陵大学、敬和学園大学、日本歯科大学新潟短期大学、明倫短期大学、新潟薬科大学）に在籍する学生が集い、模擬医療チームを形成し、在宅医療を題材として患者の QOL を向上させるようなチーム医療を提案する。この「専門職間連携教育学生セミナー」は平成 22 年 8 月 18 日（水）～20 日（金）の 3 日間行われ、1 日目は英国 CAIPE 副センター長 Helena Low 先生による講演とアイスブレーキング、グループワークによる患者事例に関する予習、2 日目はグループごとに患者・医療機関への訪問・見学と患者および家族へのインタビュー、3 日目はグループワークによって提案する医療の内容をまとめ、発表・意見交換の後に Low 先生の講評をいただく形で進められた。予習段階で閲覧する患者情報からは見えないポイントがインタビュー時には明確になり、学生は患者や家族、医療従事者と十分なコミュニケーションをとることの重要性を肌で感じた。さらに、専門職の『卵』が互いの立場や視点を尊重し連携を図ることで、シームレスなケアができることを体験した。専門職間連携教育学生セミナーの様子を交えて紹介する。